



青い時間を吸い上げる  
絹  
H220 × W400 × D20cm  
2011年

絹の経糸(たていと)に染料液が自然に浸透することによってできる色の濃淡を利用している。織る前の糸を染め分けることによる意匠を「絰」とするならば、今回の作品も広い意味では「絰」である。通常「絰」は糸を圧迫して染料液の侵入を防ぎ、色を染め分けるが、染料液の移動の軌跡そのものを色の濃淡として残してみた。繊維の吸収力と染料液の浸透力が限界に達したところには、繊維自体の色とのあいだにあるかないかの際ができる。繊維と染料液と時間が作り出した筆跡を織物の中にとどめたいと考えた。

